

A O I国際病院 Time's

VOL. 19
冬号

目次

- P, 1 院長新年のご挨拶
- P, 2 岡本医師就任ご挨拶
- P, 3 医療連携会報告
- P, 4 歯科連携会報告
- P, 5 救急車導入のご案内
- P, 6 野球部の活動報告
- P, 7 編集後記

病院の理念

地域の皆様に信頼していただける、質の高い医療を提供します。

基本方針

1. 救急医療から、一般急性期、回復期、慢性期、緩和ケア期までのシームレスな総合医療を提供します。
2. 川崎市臨海地域病院として、各医療機関、保健福祉機関と密接に連携します。
3. 生活習慣病健診を充実させ、予防医学に貢献します。
4. 運営の持続的安定を確保し、病院としての責任を果たします。
5. 職員が誇りを持てる働き甲斐のある病院を目指します。

古川院長 新年の挨拶



古川 良幸 院長

あけまして、おめでとうございます。

本院もおかげさまで開院して、本年4月には7年目を迎えます。これもひとえに地域の先生方や地域住民の皆様のご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

新しい取り組みとして、地域医療により一層貢献出来るよう、来年度より不整脈先端治療センターを開設し、循環器領域においても強化してまいります。

新たに救急車2台を導入し、地域の先生方の診療所に来られた患者様や、在宅療養を支える往診医の先生方からの、受診や入院の要請などにも迅速に対応が可能になるとともに、当院からの転院搬送などの際にも活用できるようになりました。

また、脳卒中や頭部外傷の急性期医療や脳血行再建術の診療をより一層充実させ、脳血管内治療に迅速に対応できる体制を整えて参ります。脳神経外科では、一刻を争う疾患に対して、専門医を配置して脳梗塞や血栓除去療法（T-PA血栓溶解療法、脳血管内手術）に、365日24時間、緊急手術に対応できる体制を整えております。また、病院名を改称してからは、外国からの多数の患者様が、治療や健康診断を目的に受診をされるようになりました。スタッフも言葉の壁や習慣の違いなどを日々学びながら、患者様の治療やケアに当たっております。

現在病院内には英語をはじめ、中国語、ベトナム語、タイ語、インドネシア語などのアジア圏の言葉に精通しているスタッフが看護や事務の職員として配属されております。

現在各企業が外国からの職員の受け入れや研修の受け入れなどを行っている事と、観光客増加などで、今後もこのような患者様は増加するものと思われまます。このようなことでお困りの際には是非ご相談をいただければ幸いです。

今後は地域医療を支え、安心して安全な医療を提供できるよう、スタッフ一同身を引き締めて邁進して参りますので、引き続きご支援の程お願い申し上げます。

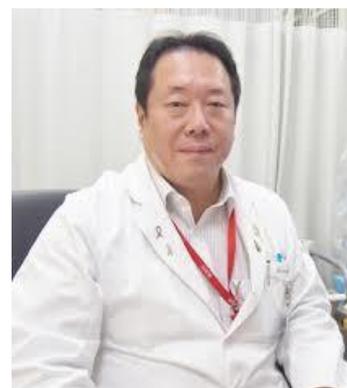


乳腺外科 岡本医師着任のご案内

日本では欧米に比べて、乳がんの患者数は比較的少ないとされてきましたが、近年乳がんの患者数は増加しており、AOI 国際病院でも、以前より患者様から乳腺外科の充実化に力を入れてほしいとのお声を頂戴してまいりました。以前より乳腺外科の診察をおこなっていましたが、外来のみであったため手術や入院は困難でした。この度、平成30年10月より、岡本 譲二先生が就任することになりましたので、ご紹介をさせていただきます。

岡本先生は、多くの乳がん患者様と向き合ってこられた先生です。乳がんは術後の再発などのリスクから、長い治療をされる患者様が多くいらっしゃいますが、丁寧な診察で患者様にとってより良い治療を行うために邁進されております。

外科的な治療だけでなく、患者様が病気を克服するためのサポートを先生を中心として当院スタッフ一同努力してまいります。



岡本 譲二 医師

【略歴】

平成3年3月	大阪医科大学医学部卒業
平成3年5月	三井記念病院 外科
平成7年4月	東京女子医科大学 内分泌外科
平成10年4月	札幌医科大学 第一外科
平成14年4月	聖マリアンナ医科大学 乳腺内分泌科
平成16年4月	三井記念病院 内分泌外科医長
平成21年4月	日本鋼管病院 乳腺外科部長
平成25年8月	戸塚共立第1病院 乳腺外科部長
平成30年1月	戸塚共立第2病院 乳腺外科部長

【資格】

日本外科学会専門医
日本乳癌学会認定医
検診マンモグラフィ読影認定医

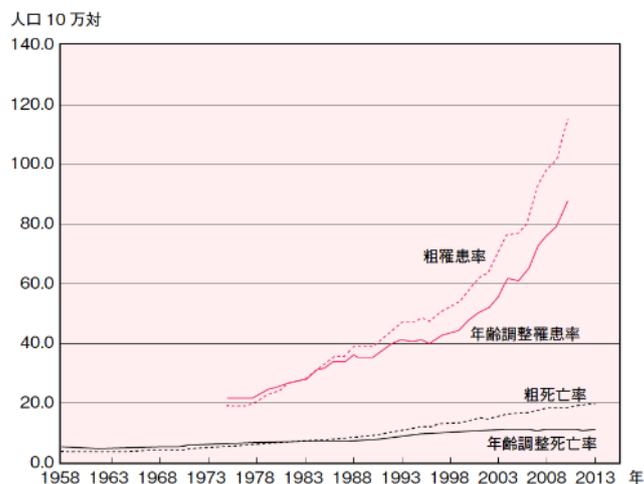


図1 乳癌罹患率、死亡率の年次推移

資料：独立行政法人国立がん研究センターがん対策情報センター

乳腺外科	月	火	水	木	金	土
午前	岡本		岡本	岡本	伏見 第2・4	岡本
午後	岡本		岡本		伏見 第2・4	

第5回医療連携・懇親会を開催しました

平成30年11月9日に当院の第5回目となる医療連携会を殿町にあるジョンソン・エンド・ジョンソン東京サイエンスセンターにて開催をいたしました。

講演会では、まず院長古川より当院の取り組みの紹介と実績の報告を行わせていただきました。その後の特別講演では、東京医科歯科大学教授 平尾見三先生による『心臓と脳を護る不整脈診療 心房細動治療の最前線』という演目でご講演頂きました。

当日は多くの医療機関や福祉事業所の皆様にお越しいただき、誠にありがとうございました。



講演を行う古川院長



講演会の様子

続いて、講演会に参加していただいた方と当院職員との意見交換及び親睦を深める目的で懇親会を行いました。会場では、地域の先生方や連携室の方と当院の医師や看護師などとの間で活発な意見交換が行われ、お互いに顔の見える連携体制をどう進めるべきかについての意見交換が行われました。今後の連携について食事を交えお話しすることができ、大変有意義なひとときであったと思います。

医療連携会も皆様のご協力もあり、今回で5回目となりました。また地域の皆様方によりよい医療を提供していく上で、地域の先生方との連携をさらに深め、川崎臨海地域の医療に貢献していきたいと思っております。



懇親会の挨拶を行う呉院長代理



懇親会の様子

歯科口腔外科連携会を開催しました

平成30年10月5日当病院内にて、歯科口腔外科連携会を開催させていただきました。
第1部の講演会では小林医師より「歯科治療と骨粗鬆症治療薬」という内容で講演を行いました。田島医師においては「全顎補綴インプラントの一症例」という講演を行いました。

現在、当院歯科口腔外科は、小林 誉医師、田嶋 聖士医師、木脇 麻衣子医師（非常勤）による体制で、月曜日から土曜日までの診療を行っております。救急での治療を必要とする場合など、お電話いただければ対応させていただきます。



講演会の様子



講演を行う田島医師

第二部では、地域医療連携室の目標としている「顔と顔が見える連携」をより密にするための懇親会を開催いたしました。

短い時間ではありましたが、初めてこの会に出席くださった先生もおり、たくさんの情報交換ができ実り多い会になりました。今後も地域の先生方のご要望や患者さんからのご希望を取り入れながら、連携に力を注いでいきたいと考えております。



懇親会の様子



懇親会の様子

病院救急車導入のご案内



現在、日本では救急出動件数が10年間で130万件と言われており、年々増加傾向にあります。

搬送人員が年に約100万人ずつの増加をしているといわれている現在は、救急要請から病院へ到着する時間も年々伸びている状況です。

AOI国際病院として、地域医療を担い支えるという立場から、この度、病院救急車を導入することとなりました。

在宅医療を受けている患者様や施設入所中などで、救急車を要請する必要はないものの、病院への搬送手段にお困りであったり、持続的に医療の手が必要な場合や、診療所やクリニックなどの受診時に救急受入が必要と判断された場合など、ご相談いただけるようになりました。

AOI 国際病院救急車運用イメージ

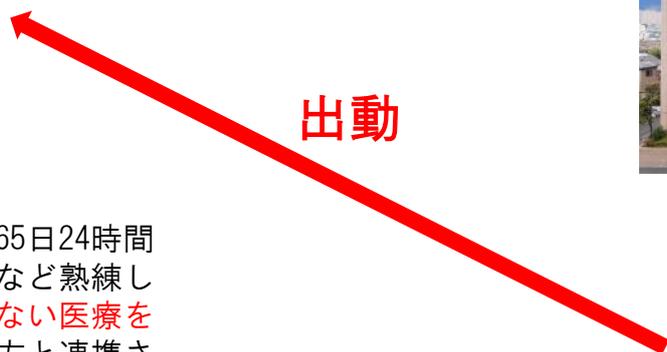


救急要請



AOI 国際病院

出動



AOI国際病院では365日24時間救急科医師、看護師など熟練したスタッフが「断らない医療を目指し」地域の先生方と連携させていただき、迅速な対応を行います。

また、脳卒中ホットラインでは、地域の救急隊員と医師が直接話すことで、早い段階での治療開始することが可能となっており、患者様に安全、安心な医療提供を行えるようスタッフ一同邁進してまいります。



AOI国際病院野球部の活動報告

私達AOI国際病院野球部は平成28年より活動をしています。現在、様々な職種から20名ほど在籍しています。

毎年10月に開かれる川崎市病院協会主催の野球大会に出場し、優勝を目指して練習をしています。活動は月に1回程度病院の近くの野球場を使用し、ナイターで練習やオープン戦を行っています。

昨年是一年戦に勝利しましたが、天候不良で大会が途中で終了となってしまいました。消化不良となってしまう昨年とは打って変わり、今年是一年戦、二年戦と快勝、準決勝まで駒を進めました。

迎えた準決勝では、相手チームの投手を最後まで攻略できず、残念ながら準決勝敗退で3位となりました。

来年こそは優勝が出来るよう頑張っていきたいと思っておりますので、ご声援をよろしくお願い致します。

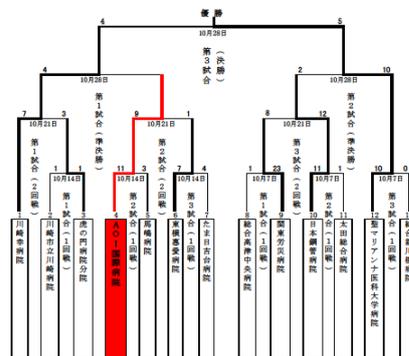


平成30年度 第40回 川崎市病院協会野球大会

期日 平成30年10月7日～10月28日
会場 あすか製薬南川崎研究所グラウンド(川崎市高津区下作延5-36-1)

大会成績

- 優勝 聖マリアンナ医科大学病院
- 準優勝 川崎幸病院
- 第3位 AOI国際病院、日本製薬病院



編集後記

今年度9月より、新しく地域医療連携室に入職しました相木加奈子と申します。実は、医療の現場は初めてで、知識豊富な先輩方にご指導頂きながら、日々奮励努力し業務に励んでおります。

私が医療業界に足を踏み入れたきっかけは、兄が足に障害を抱え、それが難病であることが分かった時です。制度の仕組みや病気の事、色々な角度から兄や家族に対してサポートできるようにになりたい、と考えたのがスタートでした。

父が長年川崎の製造工場で働いていたこと、数年前に結婚を機に川崎へ移住してきたこともあり、この場所にはとても愛着があるのと同時に御縁を感じています。

それまでの私は、医療の現場とは全く違う分野で働き、大学では地域のまちづくりについて学んでいました。大学生活の中で思い起こされる一大イベントが、年明けに行われる箱根駅伝です。

箱根駅伝というと、テレビで全国中継されている為か

【全国大会】と思われがちですが関東学生陸上競技連盟が主催する関東のローカル大会なのはご存知でしょうか。私が大学1年生の時に母校が33年ぶりに箱根駅伝への出場を果たし、その後現在に至るまで毎年出場し、出雲路を走る出雲選抜駅伝、伊勢路の全日本大学駅伝での優勝など、現在は大学駅伝を牽引する活躍をするようになりました。

母校が、箱根駅伝を走るという名誉がとても喜ばしく、今でも毎年六郷橋付近の沿道から応援をしています。



駅伝はチーム一丸となって襷をつなぎゴールを目指しますが、誰がどこを走るかは個人の個性・特性によって決められます。地域医療連携室もチームワークがとても重要な部署であると教えて頂きましたが、それぞれの得意分野を発揮しながら働く様子はさながら駅伝のようだと感じました。

私自身一日でも早く、当院の中で何ができるか、地域の皆様にどうやってお応えできるのか考えながら職務を全うしていきたいと思っております。

地域医療連携室 相木

患者様のご紹介、ご予約のお問い合わせは
地域医療連携係 TEL044-277-5519
FAX044-277-5747